

令和8年度前期 情報検定

<実施 令和8年6月21日（日）>

2級

(説明時間 11:05~11:15)

(試験時間 11:15~12:15)

- ・試験問題は試験開始の合図があるまで開かないでください。
- ・解答用紙（マークシート）への必要事項の記入は、試験開始の合図と同時に行いますので、それまで伏せておいてください。
- ・試験開始の合図の後、次のページを開いてください。＜受験上の注意＞が記載されています。必ず目を通してから解答を始めてください。
- ・試験問題は、すべてマークシート方式です。正解と思われるものを1つ選び、解答欄の○をHBの黒鉛筆でぬりつぶしてください。2つ以上ぬりつぶすと、不正解になります。
- ・辞書、参考書類の使用および筆記用具の貸し借りは一切禁止です。
- ・電卓の使用が認められます。ただし、下記の機種については使用が認められません。

<使用を認めない電卓>

1. 電池式（太陽電池を含む）以外の電卓
2. 文字表示領域が複数行ある電卓（計算状態表示の一行は含まない）
3. プログラムを組み込む機能がある電卓
4. 電卓が主たる機能ではないもの
 - * パソコン（電子メール専用機等を含む）、携帯電話、スマートフォン、タブレット、電子手帳、電子メモ、電子辞書、翻訳機能付き電卓、音声応答のある電卓、電卓付き腕時計、時計型ウェアラブル端末等
5. その他試験監督者が不適切と認めるもの

＜受験上の注意＞

1. この試験問題は17ページあります。ページ数を確認してください。
乱丁等がある場合は、手をあげて試験監督者に合図してください。
※問題を読みやすくするために空白ページを設けている場合があります。
2. 解答用紙（マークシート）に、受験者氏名・受験番号を記入し、受験番号下欄の数字をぬりつぶしてください。正しく記入されていない場合は、採点されませんので十分注意してください。
3. 試験問題についての質問には、一切答えられません。自分で判断して解答してください。
4. 試験中の筆記用具の貸し借りは一切禁止します。
5. 試験を開始してから30分以内は途中退出できません。30分経過後退出する場合は、もう一度、受験番号・マーク・氏名が記載されているか確認して退出してください。なお、試験終了5分前の合図以降は退出できません。試験問題は各自お持ち帰りください。
6. 試験後の合否結果（合否通知）、および合格者への「合格証・認定証」はすべて、Web認証で行います。
 - ①情報検定（J検）Webサイト合否結果検索ページ及びモバイル合否検索サイト上で、デジタル「合否通知」、デジタル「合格証・合格証明書・認定証」が交付されます。
 - ②団体宛には合否結果一覧ほか、試験結果資料一式を送付します。
 - ③合否等の結果についての電話・手紙等でのお問い合わせには、一切応じられませんので、ご了承ください。

問題 1 次の企業活動に関する記述を読み、各設問に答えよ。

企業活動とは、企業が行う活動全般のことである。企業活動は利益の追求だけを目的とするのではなく、消費者への適切な対応や環境への配慮、地域社会への貢献などを意識する必要がある。また、企業活動にあたっては、その目的や管理に適した組織形態がある。

<設問 1> 次の企業組織に関する記述と最も関係の深い組織形態を解答群から選べ。

- (1) 営業・開発・総務などの職種ごとに編成した組織構造であり、規模の小さい企業や単一事業の企業などに見られる構造である。社員の専門的な能力を発揮できるが、部門間の連携がとりづらく、部門間を横断するような業務では責任の所在が不明確になりやすい。
- (2) 企業内で特定の課題を解決するために、必要とされる専門技術や知識を持った人材を集め、一時的に編成される組織構造である。メンバは目的を達成したときや期限に達した際は活動を終了し、元の部門に帰属する。
- (3) 地域別・製品別などにより、企業をいくつかの事業に分割し、それぞれの事業ごとに権限と目標を与えて利益責任をもたせる組織構造である。多角化が進んだ企業で多く用いられている。一方で、重複業務が発生することで全社的な効率が低下しやすい。

(1) ~ (3) の解答群

ア. 事業部制組織

イ. 職能別組織

ウ. プロジェクト組織

エ. マトリックス組織

<設問 2> 次の企業活動に関する記述中の□□□□に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

企業活動の目的は、社会に対して商品やサービスを提供し、利益を得るという活動を継続することである。そのためには、ステークホルダとの関係を考慮し、法令や社会規範を順守すること(これを□□(4)と呼ぶ)が必要である。また、消費者への適切な対応や環境への配慮、地域社会への貢献などを意識した活動が必要であり、これを□□(5)と呼ぶ。

例えば、製品やサービスを調達する際に、品質や価格だけでなく、環境への配慮を重視した製品を調達する考え方が□□(6)であり、企業が□□(5)を果たすための具体的な取り組みの一つである。

(4) ~ (6) の解答群

- ア. BCP(Business Continuity Plan)
- イ. CSR(Corporate Social Responsibility)
- ウ. コンプライアンス
- エ. コーポレートガバナンス
- オ. グリーン IT
- カ. グリーン調達

問題2 次のプロジェクトの進捗・コスト管理に関する記述を読み、各設問に答えよ。

プロジェクトが計画通り行われているかどうかをチェックする視点として、進捗とコストがある。プロジェクトの作業日程の進捗状況を管理する手法としては、マイルストーンチャートやガントチャート、プロジェクトの進捗とコストの両面で計画と実績を比較して管理する手法として、アーンド・バリュー・マネジメント (EVM) がある。

<設問1> 次の進捗管理に関する記述中の に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

あるシステムの開発スケジュールをガントチャートで表した。作業は、要求定義～テストの5工程に分けられ、12週で開発する予定になっている。

工程 \ 週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
要求定義	実績												
機能設計		実績	実績										
詳細設計				実績	実績	実績	実績	実績					
コーディング							実績	実績	実績				
テスト										実績	実績	実績	



 予定
 実績

図 新システムの開発スケジュール

8週目経過時点で詳細設計が完了している。残っている作業は全工程の (1) % となり、予定より (2) 週の遅れとなっている。

今後も詳細設計工程と同じ進捗状況になると想定した場合、予定の残り6週分を完成させるためには (3) 週分必要となる。

(1), (2) の解答群

ア. 2 イ. 4 ウ. 50 エ. 72

(3) の解答群

ア. 8 イ. 10 ウ. 16

<設問 2> 次の EVM に関する記述中の に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

EVM(Earned Value Management)とは、プロジェクトの進捗とコストの両面から計画(予定)と実績を対して管理する手法である。EVM の構成要素には、次のようなものがある。

PV(Planned Value) : 計画段階でスケジュールに対応させた計画値

AC(Actual Cost) : 測定時点までに消化したコスト実績値

EV(Earned Value) : 測定時点でどれだけの価値を作り上げることができているかという出来高実績値

なお、計画値や実績値を表す尺度として通常は金額を用いる。EVM の構成要素の値を使い次のような評価を行う。

SV(Schedule Variance) : スケジュール差異

EV - PV がプラスであればその時点までの作業が、予定より進んでおり、マイナスであれば遅延となる。

SPI(Schedule Performance Index) : スケジュール効率指数

EV ÷ PV が 1 であればその時点までの作業が計画どおりに進んでいる。1 よりも大きければ当初の計画よりも早く進行、1 よりも小さければ計画よりも遅延していることになる。

ここで、4ヶ月の予定で予算総額 800 万円のプロジェクトがあり作業が均等に割り振られている。プロジェクト開始から2ヶ月経った時点では PV(計画値)は (4) 万円となるが、EV が 300 万円であった。したがって、スケジュール差異 SV は (5) 万円となり、スケジュール効率指数 SPI は (6) となる。現状のまま作業を進めるとコストオーバになるため、作業工程の見直しや予算の再編成が必要となる。

(4) の解答群

ア. 100 イ. 200 ウ. 300 エ. 400

(5) の解答群

ア. -200 イ. -100 ウ. 0 エ. 100

(6) の解答群

ア. 0.25 イ. 0.5 ウ. 0.75 エ. 1.2

問題3 次の情報の整理・分析技法に関する記述を読み、各設問に答えよ。

収集した情報を整理・分析し、視覚的にわかりやすく表現するためにグラフを用いることがある。グラフには様々な種類があり、目的に応じて使い分ける。

<設問1> 次のグラフに関する記述に最も関係の深い字句を解答群から選べ。

- (1) 時系列的な推移を線をつないで表すグラフである。増減や傾向がわかりやすいため、アクセス数の経時変化や価格の推移を表す場合などに用いられる。
- (2) データの値の大きさに比例した長方形で表し、それらを並べたグラフである。大小関係を比較することに適しているため、店舗や製品ごとの売上比較などに用いられる。
- (3) 複数の項目を放射状に並べ、それぞれの値を線で結んで図形化するグラフである。複数の項目における強み、あるいは弱みといったバランスを表す。製品の性能(速度・容量・価格など)を図形化し、比較する場合などに用いられる。
- (4) 各データを全体に対する割合に応じて扇形に分割し、構成比率を表したグラフである。全体に対する割合が直感的に理解できるため、費用の内訳や売上構成比を表す場合などに用いられる。
- (5) 2種類のデータ間の関係を、点の位置で表すグラフである。2種類のデータをそれぞれ縦軸と横軸に対応させ、測定値をプロットする。対応点が右上がりの場合には正の相関、右下がりの場合には負の相関となる。

(1) ~ (5) の解答群

- | | |
|-------------|-----------|
| ア. レーダーチャート | イ. 円グラフ |
| ウ. 帯グラフ | エ. 折れ線グラフ |
| オ. 散布図 | カ. 棒グラフ |
| キ. 箱ひげ図 | |

<設問 2 > 次のグラフに関する記述に最も関係の深い字句を解答群から選べ。

- (6) 結果に対して、その要因を体系的に整理するための図である。特性を魚の頭とし、その要因を骨のように放射状に表すため、フィッシュボーンチャートとも呼ばれる。要因を体系的に分析することができるため、品質管理や業務改善などで用いられる。
- (7) 問題の重要度や影響度を把握し、重点的に対策を行う項目を分析する図である。例えば、製品の不良原因の件数について件数の多い順に縦棒グラフで表し、次に件数の累積比率を折れ線グラフで表す。それらを A, B, C の三つのグループに分けて重点管理する手法などで用いられる。
- (8) 月次売上、累計売上、移動合計の3本の折れ線グラフを同一平面上に作図する。長期的な傾向を把握するための図である。季節的な変動を取り除いて分析をおこなうことができるため、在庫や売上の管理などの経営判断の材料として用いられる。

(6) ~ (8) の解答群

ア. Z グラフ

ウ. バブルチャート

オ. 特性要因図

イ. ガントチャート

エ. パレート図

問題4 問題解決技法に関する次の記述を読み、各設問に答えよ。

問題解決技法にはさまざまなものがあり、ビジネスの現場ではその目的に応じて適切な手法を選択し、活用することが求められる。現状の分析、アイデアの創出、あるいは将来の予測など、局面ごとに有効なツールは異なる。

<設問1> 次のアイデアの創出に関する記述中の□□□□に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

ある文房具メーカーJ社の開発チームでは、次期新商品のコンセプトを決める会議を行った。進行役のリーダーは、メンバ全員から自由な発想で多くのアイデアを収集するために□□(1)□□を行った。

この技法を効果的に進めるためには、守るべき4つの原則がある。会議の冒頭、あるメンバが実現性の低い意見を出した際、別のメンバが「それは技術的に無理だ」と発言した。リーダーはすぐにこれを制止し、他人の意見に対して良し悪しを判断してはいけないという□□(2)□□のルールを徹底させた。また、テーマから脱線しているように見える奇抜な意見であっても、そこから新しい発想が生まれる可能性があるため、□□(3)□□というルールに基づき歓迎した。

こうして出された50件以上のアイデアは、そのままでは活用しにくい。そのため、カードに書き出したうえでグループ化し、図解して構造化する□□(4)□□を用いて整理した。

(1)～(4)の解答群

- | | |
|---------------|-------------|
| ア. KJ法 | イ. デルファイ法 |
| ウ. ブレインストーミング | エ. ロールプレイング |
| オ. 便乗発展 | カ. 自由奔放 |
| キ. 批判禁止 | |

<設問2> 次のPDPCに関する記述中の□に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

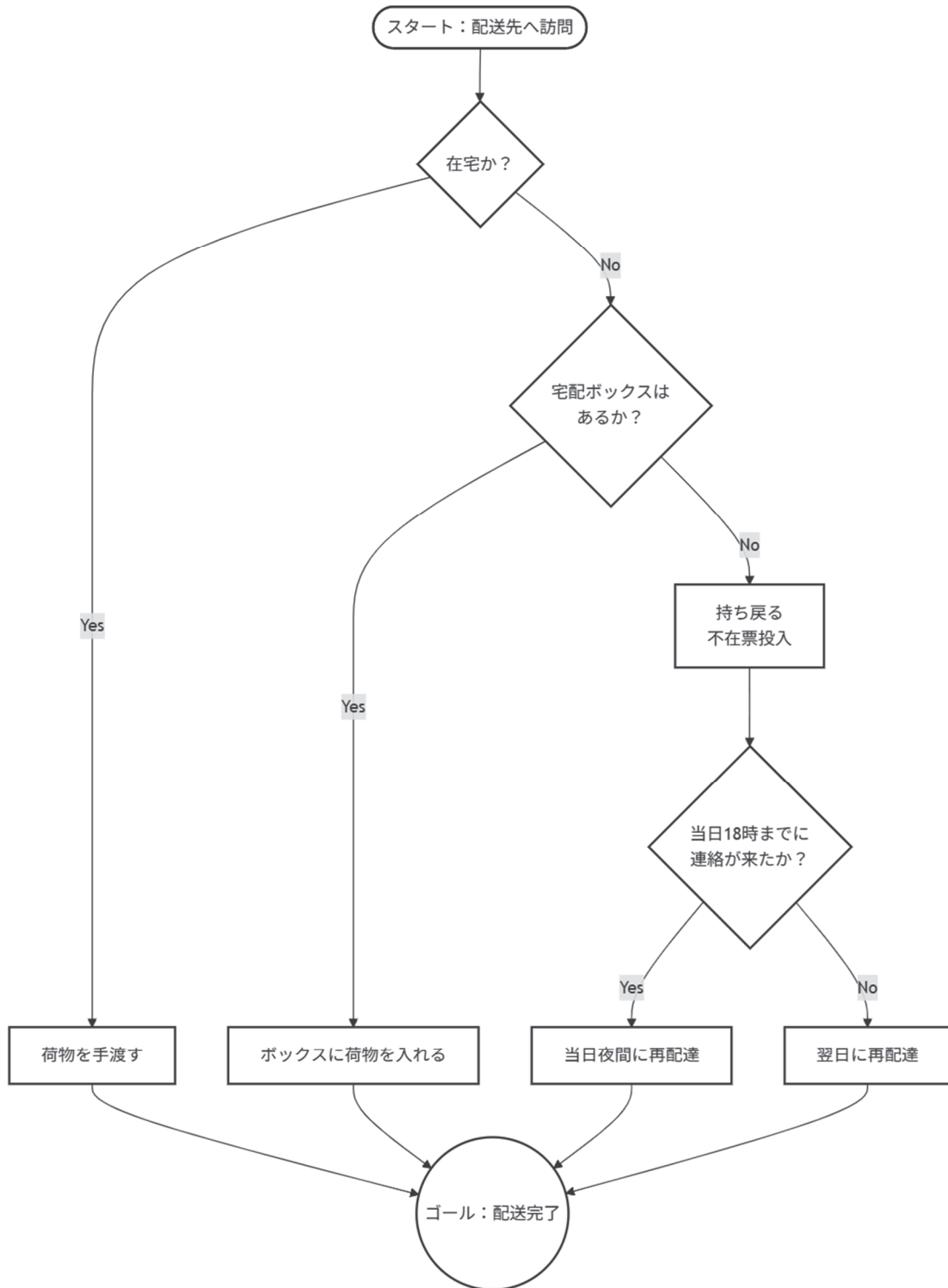


図 配送プロセス

PDPC (Process Decision Program Chart) は、目的達成までに考えられる障害を予測し、事前に対策を立てることでリスク対策を行う手法である。

新人ドライバーの J さんは、図の配送プロセスに従って配送業務を行っている。ある日、J さんが A 宅に配送に向かったところ、チャイムを鳴らしても応答がなく不在であった。玄関周りを確認したところ、宅配ボックスが設置されていた。この場合、図のルートに従えば、J さんがとるべき行動は となり、これで配送完了となる。

次に B 宅へ向かったところ同様に不在であったが、ここには宅配ボックスが設置されていなかった。そのため、図の通り「持ち戻る」の処理を行い、不在票をポストに投函した。その後、B 宅の住人から配送センターに電話があった。もし、この電話が 17 時 50 分に入っていた場合、対応は となる。しかし、実際の電話は 19 時 00 分であった。そのため、今回のケースでは J さんが行うべき正しい対応は となる。

このように PDPC を用いることで、不測の事態（不在など）が発生しても事前に決められた を辿ることで、迷うことなく業務を遂行し、最終的なゴールに到達することができる。

(5) ～ (8) の解答群

- | | |
|----------------|--------------|
| ア. ボックスに荷物を入れる | イ. 強制連結 |
| ウ. 原因分析 | エ. 逐次展開 |
| オ. 代替ルート | カ. 当日の夜間に再配達 |
| キ. 荷物を手渡す | ク. 翌日に再配達 |

問題5 コンピュータの周辺機器に関する次の記述を読み、各設問に答えよ。

コンピュータ本体に接続し、その機能を拡張・補完するハードウェアの総称を「周辺機器」という。その役割は、データの入力・出力から、情報の記憶、ネットワーク通信に至るまで多岐にわたり、利用者は用途や環境に合わせて適切な機器を選択し、システムを構成する。

<設問1> 次の記憶装置に関する記述中の□□□□に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

CPU内部にあるキャッシュメモリには、高速だが容量当たりの単価が高い□□(1)が使われている。このメモリは、リフレッシュ(再書き込み)動作が不要で高速に動作する。一方、実行中のプログラムやデータを一時的に展開する主記憶装置には、安価で大容量化が容易な□□(2)が広く採用されている。

大きなプログラムを処理するには、主記憶も大きくしなければならないが、それには限度がある。主記憶の容量を補うための仕組みが□□(3)である。□□(3)では補助記憶装置の一部を一時的に主記憶装置のように扱っている。

OSやデータを長期保存する補助記憶装置には、近年、磁気ディスク(HDD)に代わり、半導体である□□(4)を用いたSSDの普及が進んでいる。SSDはHDDと比較して衝撃に強く、読み書きが高速である。

(1)～(4)の解答群

- | | |
|----------------|-------------|
| ア. DRAM | イ. ROM |
| ウ. SRAM | エ. スワップアウト |
| オ. デフラグメンテーション | カ. フラッシュメモリ |
| キ. ホットプラグ | ク. 仮想記憶 |

問題6 次のサイバー攻撃に関する記述を読み、各設問に答えよ。

現代のネットワーク社会では、巧妙化しているサイバー攻撃が組織や個人を脅かす深刻なリスクとなっている。特定の組織を狙うものや、データの復元に身代金を要求するもの、Web アプリケーションの脆弱性を突く攻撃による被害などが多く報告されている。これらの脅威に対応するには、システム側の技術的対策だけでなく、利用者側のリテラシ向上も不可欠である。サイバー攻撃の特徴を理解し、多層的なセキュリティ対策を講じなければならない。

<設問1> 次の組織を狙ったサイバー攻撃に関する記述中の□□□□に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

企業の情報システムに対するサイバー攻撃には様々な手法が存在する。

例えば、利用者のPCやサーバに侵入し、ファイルを暗号化した上で元に戻すことと引き換えに金銭を要求するマルウェアを□□(1)□□という。

また、外部から、本来の認証やセキュリティ機構を経由せずにシステムへ侵入できるようにする仕組みやプログラムを□□(2)□□という。

(1)、(2)の解答群

ア. スパイウェア

イ. バックドア

ウ. ファイアウォール

エ. フィッシング

オ. ランサムウェア

カ. ワーム

<設問2> 次の情報サービスを狙ったサイバー攻撃に関する記述中の□□□□に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

インターネットを活用した情報サービスが一般的になる中で、様々なサイバー攻撃が情報サービスの利用者に脅威を与えている。

例えば、Webサイトのドメイン名とIPアドレスの対応関係の情報を改ざんし、利用者を意図しないWebサイトへ誘導する攻撃は□□(3)□□という。

また、特定のサーバに処理能力を超えるような大量のデータを送り付けて、サービスを停止させるような攻撃は□□(4)□□という。

さらに、経営者や取引先になりすまして正規の連絡を装った電子メールを送り、送金の指示を行ったり機密情報を盗み出したりする攻撃を□□(5)□□という。

(3)～(5)の解答群

ア. BEC (Business Email Compromise)

イ. DoS/DDoS 攻撃

ウ. DNS キャッシュポイズニング

エ. ゼロディ攻撃

オ. トロイの木馬

カ. バッファオーバーフロー

<設問3> 次のWebシステムを狙ったサイバー攻撃に関する記述中の□□□□に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

Webシステムでは、外部からの入力をそのまま処理するようになっていると、深刻な脆弱性になることがある。

例えば、データベースにアクセスするWebシステムで、データを入力する欄にデータベースを操作する言語の命令文を入力し、データベースを不正に操作するような攻撃を□□(6)□□という。この対策として、命令として意味を持つ特定の文字を他の文字に置き換えて無害化する□□(7)□□やプレースホルダを用いて入力値を命令として解釈させない方法が有効である。

また、脆弱性のあるWebページに不正な命令文を埋め込み、それを利用者のWebブラウザ上で実行させる攻撃を□□(8)□□という。この対策として、HTMLタグとして解釈される文字を別の文字に変えて無害化する□□(7)□□が有効である。

(6) ~ (8) の解答群

- | | |
|-----------------|-------------------|
| ア. SQL インジェクション | イ. クロスサイトスクリプティング |
| ウ. サニタイジング | エ. セッションハイジャック |
| オ. ディレクトリトラバーサル | カ. パスワードリスト |

問題7 この問題で使用する表計算ソフトの仕様を読み、各設問に答えよ。

この問題で使用する表計算ソフトの仕様は下記のとおりである。

CONCATENATE 関数

複数の文字列を結合して1つにまとめた文字列を返す。

書式：CONCATENATE(文字列1, 文字列2, …)

COUNTA 関数

指定した範囲に含まれる空でないセルの個数を返す。

書式：COUNTA(範囲)

COUNTIF 関数

指定した範囲に含まれるセルのうち、条件に一致するセルの個数を返す。

書式：COUNTIF(範囲, 条件)

SUM 関数

指定した範囲に含まれる数値の合計値を返す。

書式：SUM(範囲)

式

=に続いて計算式や関数などを入力する。

セル番地の絶対参照

セル番地に\$を付けることで、絶対番地（絶対参照）を表す。

別シートの参照

ワークシート名に「!」を付けてセル位置を指定することにより、別のワークシートを参照できる。例：ワークシート名「集計」のセルA1を参照する場合は、「集計!A1」と記述する。

あるイベント会場で行われたイベントの参加者の集計を表計算ソフトを用いて行う。このイベント会場では3つのイベント（イベントA，イベントB，イベントC）が行われ、参加者はイベント体験後に、イベント会場に掲示してあるQRコードをスマートフォンで読み取り、アンケートページを開いてアンケートに回答する。アンケートの内容は次のとおりである。

- ・性別（男性，女性，答えたくない）
- ・年齢（20歳未満，20歳以上40歳未満，40歳以上60歳未満，60歳以上）
- ・同行者（一人，家族，友人）

アンケートの結果は、イベントごとに3つのワークシート「イベントA」、「イベントB」、「イベントC」に入力した。次の図1は、「イベントA」ワークシートであり、他の「イベントB」、「イベントC」ワークシートも同様の形式である。

	A	B	C
1	性別	年齢	同行者
2	男性	40歳以上60歳未満	家族
3	女性	40歳以上60歳未満	家族
4	男性	40歳以上60歳未満	友人
5	男性	20歳未満	家族
6	男性	40歳以上60歳未満	一人
7	女性	20歳未満	家族
8	女性	40歳以上60歳未満	家族
∴	∴	∴	∴

図1 「イベントA」ワークシート

アンケートの回答者は、延べ人数が1万人未満なので、これらのワークシートは最大でも10000行まで順番に入力した。データが格納されていないセルの内容は空である。

<設問1> 次の「集計A」ワークシートの作成に関する記述中の に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。なお、(a)～(c)は、式の組み合わせを(2)の解答群から選べ。

図1の「イベントA」ワークシートから、図2の「集計A」ワークシートを作成する。セルD2～D11は小数点以下第1位までのパーセンテージ表示形式とする。なお、同様の作業をして「集計B」、「集計C」ワークシートも作成する。

	A	B	C	D
1	分類	回答項目	人数	割合
2	性別	男性	1516	44.9%
3		女性	1594	47.2%
4		答えたくない	266	7.9%
5	年齢	20歳未満	996	29.5%
6		20歳以上40歳未満	845	25.0%
7		40歳以上60歳未満	1044	30.9%
8		60歳以上	491	14.5%
9	同行者	一人	548	16.2%
10		家族	2366	70.1%
11		友人	462	13.7%

図2 「集計A」ワークシート

- ・アンケートの項目から、A列B列および1行の項目を入力した。
- ・C列は該当する回答項目の人数を集計する。セルC2に次の式を入力し、セルC3～C11に複写する。

=

- ・D列は分類ごとの割合を計算する。セルD2に式=を入力してセルD3～D4に複写し、セルD5に式=を入力してセルD6～D8に複写した。最後に、セルD9に式=を入力しセルD10～D11に複写した。

(1) の解答群

- ア. COUNTIF(イベントA!\$A2:\$C10000, B2)
- イ. COUNTIF(イベントA!\$A2:C\$10000, B2)
- ウ. COUNTIF(イベントA!A\$2:C\$10000, B2)
- エ. COUNTIF(イベントA!A2:C10000, B2)

(2) の解答群

	(a)	(b)	(c)
ア.	C\$2 / SUM(C\$2:C\$4)	C\$5 / SUM(C\$5:C\$8)	C\$9 / SUM(C\$9:C\$11)
イ.	C\$2 / SUM(C2:C4)	C\$5 / SUM(C5:C8)	C\$9 / SUM(C9:C11)
ウ.	C2 / SUM(C\$2:C\$4)	C5 / SUM(C\$5:C\$8)	C9 / SUM(C\$9:C\$11)
エ.	C2 / SUM(C2:C4)	C5 / SUM(C5:C9)	C9 / SUM(C9:C11)

<設問2> 次の「イベントA」ワークシートの拡張に関する記述中のに入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

後の集計で使用するため、「イベントA」ワークシートのD列とE列に検索用の文字列を設定する。D列は年齢と性別を合わせたもので、E列は年齢と同行者を合わせたものである。なお、「イベントB」、「イベントC」ワークシートも同様に作業する。

	A	B	C	D	E
1	性別	年齢	同行者	検索1	検索2
2	男性	40歳以上60歳未満	家族	40歳以上60歳未満男性	40歳以上60歳未満家族
3	女性	40歳以上60歳未満	家族	40歳以上60歳未満女性	40歳以上60歳未満家族
4	男性	40歳以上60歳未満	友人	40歳以上60歳未満男性	40歳以上60歳未満友人
5	男性	20歳未満	家族	20歳未満男性	20歳未満家族
6	男性	40歳以上60歳未満	一人	40歳以上60歳未満男性	40歳以上60歳未満一人
7	女性	20歳未満	家族	20歳未満女性	20歳未満家族
8	女性	40歳以上60歳未満	家族	40歳以上60歳未満女性	40歳以上60歳未満家族
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

図3 拡張した「イベントA」ワークシート

- ・セルD2に次の式を入力し、セルD3以降複写する。
=
- ・セルE2に次の式を入力し、セルE3以降に複写する。
=

(3) , (4) の解答群

- ア. A2 + B2
- イ. B2 + A2
- ウ. B2 + C2
- エ. CONCATENATE(A2, B2)
- オ. CONCATENATE(B2, A2)
- カ. CONCATENATE(B2, C2)

<設問3> 次の「クロス集計A」ワークシートの作成に関する記述中の に
入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

図3の拡張した「イベントA」ワークシートから、「60歳以上の男性」や「20歳未満で家族ときた」のように、「年代と性別」および「年代と同行者」を組み合わせて、その割合をまとめた「クロス集計A」ワークシートを作成する。セルB3~F6は小数点以下第1位までのパーセンテージ表示形式とする。なお、同様の作業をして「クロス集計B」、「クロス集計C」ワークシートを作成する。

	A	B	C	D	E	F
1		性別		同行者		
2		男性	女性	一人	家族	友人
3	20歳未満	13.8%	13.7%	1.7%	24.2%	3.6%
4	20歳以上40歳未満	10.9%	12.1%	3.3%	17.0%	4.8%
5	40歳以上60歳未満	14.1%	14.5%	6.2%	20.8%	3.9%
6	60歳以上	6.1%	7.0%	5.1%	8.1%	1.4%

図4 「クロス集計A」ワークシート

- ・A列とセルB1~F2は、アンケートの分類項目および回答項目と同一の値を入力した。
- ・セルB3に次の式を入力し、セルC3~F3、およびセルB4~F6に複写する。

= (5) / (6)

(5) , (6) の解答群

- ア. COUNTA(イベントA!\$A\$2:\$A\$10000)
- イ. COUNTA(イベントA!\$A2:\$A10000)
- ウ. COUNTA(イベントA!A2:A10000)
- エ. COUNTIF(イベントA!\$D\$2:\$E\$10000, CONCATENATE(\$A3, B\$2))
- オ. COUNTIF(イベントA!\$D\$2:\$E\$10000, CONCATENATE(A\$3, \$B2))
- カ. COUNTIF(イベントA!\$D\$2:\$E\$10000, CONCATENATE(A3, B2))

